

まちかど ネットワーク

お問い合わせ

このコーナーは、皆さんの意見や地域の問題をお届けしています。
広報広聴課 ☎ 55 - 2700 へご連絡ください。



50種類以上もある、塗料の在庫を確認する伊集院さん

ことし十月、伊集院さんは富士塗装組合から推薦され、塗装工として市からふじマイスター・匠人に認定されました。塗装工とは主に、建物の壁などを塗る仕事をします。建物は年を追うごとに劣化します。これを防止し、建物の保全や維持を行う手段として、塗装という技術が施されます。そのためには、多くの材料の知識、適材適所の塗装技術が必要となります。伊集院さんは、私の仕事は建物を守る仕事です。匠人に認定されたことで、市民の皆さんが塗装工という仕事を知るチャンスになったのではと、うれしく

思います」と喜びを語ります。現在は、現場から離れ、会社で請け負う現場の指示・管理などを行っています。また、先輩から授かった知識や技能を若い技術者へ伝え後継者を育成しようという後輩の指導を行っています。伊集院さんの出身地は鹿児島県です。大学生のとき、バンド仲間だった友人の誘いがきっかけとなり、昭和四十五年に比奈の塗装店で働き始めました。伊集院さんは、建物の塗装には、一人で担当する仕事もありますが、大きな建物になると、何十人もの塗装工で協力して作業します。ロゼシアターや中央図書館などの塗装をいくつか手がけることにより、仲間と物をつくる楽しさを知りました。これからも、塗装によって、街を美しくしていきたいと思っています」と、すてきな笑顔で話してくれました。



校内に張られているアルミ缶回収PRポスターの前で（望月智さん《3年・左》、望月雄さん《3年・中央》、春山さん《3年・右》）。

アルミ缶リサイクル協会による平成十七年度アルミ缶回収優秀校に、全国で五十二校が選ばれ、その一校に富士中学校が選ばれました。過去には、吉原第二中学校と元吉原中学校、元吉原小学校が受賞していて、市内では四校目、富士中学校のアルミ缶回収は、PTA活動の一環として七年ほど前に始まりました。二年前からは、生徒たちが環境やリサイクルに関心を持つようになり、生徒会活動として取り組むようになりました。毎月第一・四水曜日に、生徒が各家庭からアルミ缶を持ち寄ります。リサイクル委員長の望月雄斗

さんは、最初は、なかなかアルミ缶を回収できませんでしたが、全校集会や校内放送で呼びかけたり、校内にポスターを掲示したりして、みんなにPRしてきました。今では、約八割の生徒が参加しています」と話します。約一年半の間に回収したアルミ缶の量は、二・七トンにもなります。アルミ缶から換金されたお金で、昨年は新潟県中越大地震募金にも協力しました。生徒会長の望月智文さんや副会長の春山綾菜さんは、表彰され、とてもうれしいです。これをきっかけに、今まで以上にアルミ缶回収に対する生徒一人一人の意識が高まっていけばと思います。これからも、活発にアルミ缶回収を行っていきたくて」と話してくれました。



登校時に行っているアルミ缶回収の様子

富士中学校が、アルミ缶回収で優秀校表彰に輝く



第1弾

塗装工として、熟練の技術や知識を持つ「ふじマイスター・匠人」

いじゅういん もりひろ
伊集院 護博さん
(間門)

